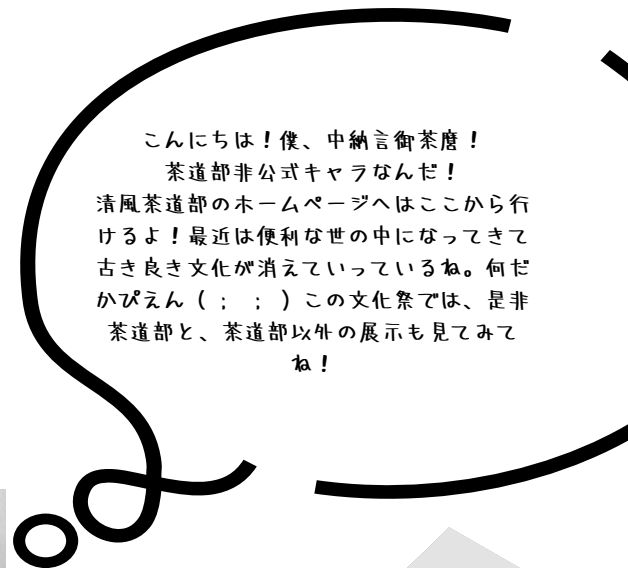


Seifu Tea ceremony club

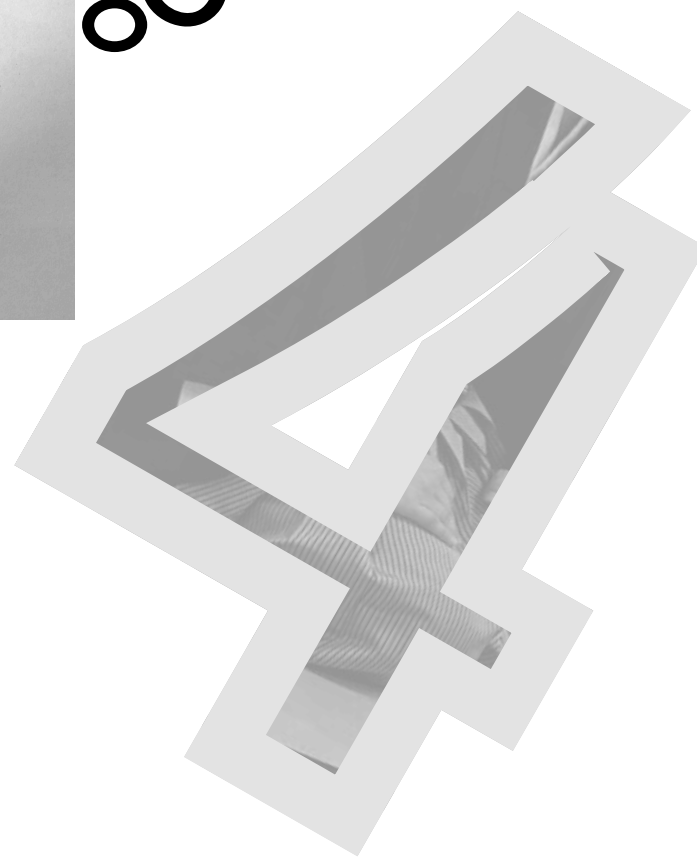
2024



WABI SABI



こんにちは！僕、中納言御茶磨！
茶道部非公式キャラなんだ！
清風茶道部のホームページへはここから行けるよ！最近では便利な世の中になってきて古き良き文化が消えていっているね。何だかぴえん（；；）この文化祭では、是非茶道部と、茶道部以外の展示も見てみてね！



目次

TABLE OF CONTENTS

茶道を振り返って
部の追憶

隔絶された世界

茶の心

家元見学にて

茶への関心

家元での学び

茶道部について

茶道の歴史

お初釜

部を通じての成長

川口 慶人

堀岡 奏太

浅井 悠貴

栞原 直弥

西之坊 蓮

北村 慧晋

武田 瑞輝

小山 悠人

足田 柊馬

栃谷 駿仁

重光 慶太郎

田口 颯大

岡本 英大

小門 郁斗

窪田 隼也

茶道を振り返って

川口 慶人

茶道部の難しいところはお点前で細かいところに気をつかうことだ。しかし細かいことに気を使うとミスをするが多く、きれいなお点前をすることは至難の技である。七代目の如心斎の言葉に「茶の湯は常のことなり」とあるように常日頃から様々なことに気をつかうことも大事だ。なぜお茶をたてるのに茶葉をいれてかきまぜて泡立てて提供することをしないか？ゲームをしているときを考えてみよう、それをやることで勝ち負けは存在するがそれ自体に意味があるわけではない。しかしゲームすることで幸福を感じるだろう。結果は関係なく、その過程に意味を見出しているわけである。同じように茶道についても周りくどいことをしているようで実はその過程が最も大事だということを示しているのだと私は考えた。茶道のもつ間や奥を楽しんでほしい。

部の追憶

堀岡 奏太

茶道部の活動を振り返ると、茶道の奥深さと心の落ち着きを学ぶ貴重な時間でした。茶室での静寂と茶の香りに包まれながら、日常の喧騒を忘れ、心を整えることができました。部員との交流を通じて、礼儀作法や思いやりの大切さも学びました。これからも茶道の精神を大切に、日々の生活に活かしていきたいと思えます。

隔絶された世界

栞原 直弥

七月二十九日、清風学園茶道部の高校二年生は家元見学というとても貴重な機会をいただき、表千家家元を見学いたしました。その中で、私が最も印象に残ったのは、茶室へと続く露地という庭園です。草履に履き替え、入り口をくぐり、露地に入っていたとき、外の喧騒が全く聞こえず、油蟬がじりじりと鳴く声と、草履が踏み石にこつこつと当たる音のみが聞こえてくることに気づきました。そこで、私は茶室という精神統一の場に入るには日常から切り離された露地をくぐっていかねければならないという茶道における露地の役目を見いだすことができました。家元見学を通じて、茶道という芸道への理解がより一層深まり、とても良い経験をさせていただくことができた実感しております。

僕が表千家の家元見学に行つて、思ったことは二つあります。一つ目は茶道はただお茶の点て方を学ぶだけではないということです。お茶を正しい手順で点てられるようになってからが茶道の本質だと思いました。茶道によって、日常生活における他者への礼儀やおもいやりが身につき、また、日本昔ながらのおもてなしの心を学ぶことができます。二つ目は、茶室に様々な工夫がなされていたことです。茶室への入口はとて小さくどれほど身分の高い人でさえも頭を下げないと茶室に入ることをできないような構造なども茶道の精神的なものに通じるところがあると思いました。

茶の心

西之坊 蓮

Tea break

茶掛について



このお軸には新年に長生きを願う意味が込められているよ！「鶴は千年亀は万年」って聞いたことはあるかな？

茶室のお床には、掛け物がかかっています。なぜなのでしょう
か？ 実は、茶室の床の間にかかっている掛け物、す
なわち茶掛は茶の湯のお道具の中で最も格式が高いものと
されていいるほど大事なもののなんです！

茶の湯成立時代から、「茶室という聖なる空間に飾るもの
は格式が高いものであるべき」という考えがあり、茶掛に
は禅語が書かれていたり和歌の一部が詠まれていたりしま
す。戦国時代の茶人である千利休の秘伝書『南方録』に
は、「掛物ほど第一の道具はなし」と書かれており、茶席
において非常に重要視されているのがわかりますね！



家元見学にて

北村
慧晋

今回、我々高二生は清風の茶道部として表千家の家元見学に行かせていただきましたが、まず思ったことは純粹にすごい、ということでした。家元は京都市内の風情豊かな街中にあります。中に入るとすぐに緑が目に入り、見学させていただいた不審庵はきれいに育てられた苔に囲まれていてとても神秘的でした。そして他の見学者の方たちと一緒にお茶とお菓子を頂いたのですが、その時の掛軸の言葉は「説似一物即不中」というもので、言葉では物事の真理を表現し切れない、というものでした。これは表千家十三代家元即中斎の由来にもなったそうです。この言葉のように、言葉では伝えられることにも限界があるので、ぜひご自身でお茶のことを体験してみてください。

家元見学の一環として表千家北山会館に行った。そこではお茶で用いられる様々なお道具が展示されており、私はそのお道具ひとつひとつの様々な形や風貌にいたく感銘を受けた。なぜなら、私が普段からお稽古に用いるお道具は基本的に同じものを使っており、今まで見たことがないお道具ばかりだったからである。私はふとそこで茶道に興味を持つ一番簡単な方法は、お道具を拝見してみることはないかと考えた。お茶の歴史や作法にいまいちピンとこなければ、是非一度インターネットで検索したり展覧会へ足を運んでみてほしい。少しでもお茶への興味が湧いたのならとても嬉しく思う。

茶への
関心

武田
瑞輝

家元での学び

小山 悠人

表千家の家元見学は、茶道の奥深さに触れる貴重な経験になりました。まず目に入ったのは、綺麗に手入れされた庭です。地面の苔や岩にくっついていたりしたセミの抜け殻には静かで落ち着いた雰囲気があり、とても心が和みました。そして、その先にある残月亭で太閤柱を紹介していただきました。太閤柱とは名残の月を秀吉が眺める際にもたれていたと言われる柱で、茶道と秀吉との関係を肌で感じる事ができ、感動しました。この家元見学では、普段の部活では味わえないことをたくさん経験することができ、とても充実した一日になりました。

一口に茶道と言っても、茶道にも色々な流派があります。中でも代表なものに、表千家、裏千家、武者小路千家の三つがあり、清風学園の茶道部の流派は、表千家です。裏千家はお茶をよく泡立てて点てるのに対し、表千家はあまり泡立てないようにしつつ泡が三日月形になるように点てるなど、細かな違いがあって面白いです。また、作法一つひとつにそれぞれ意味があり、なぜそれをするのか、なぜそのタイミングでするのかを考えながらすると、とても面白いです。皆さんも、是非茶道部の体験にお越しく下さい。

足田 柁馬

茶道部について

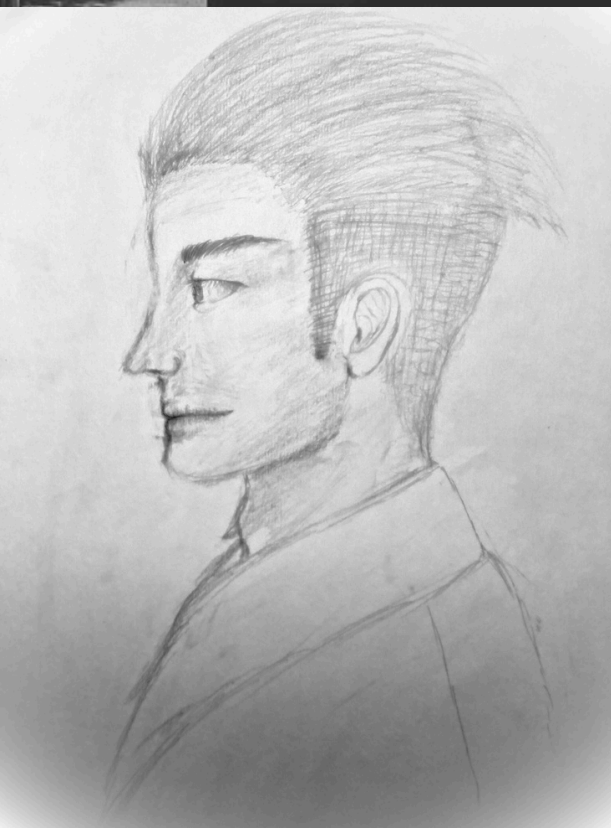
プチ知識

家元ってなんのこと？

文中に何度も「家元」と出てきていましたが、そもそも「家元」ってなんなのでしうか？

「家元」は、日本の芸道において家伝として継承している家系、または家系の当主、またはお家全体のことです。私たちが見学をさせていたただいたのは、私たちが普段お稽古をしている表千家の家元なんです。茶道には大きく分けて三つの流派、「表千家」「裏千家」「武者小路千家」があり、これらを合わせて「三千家」といいます。元々はひとつの大きなお家で、そこから通りの表側にある「表千家」、裏にある「裏千家」、武者小路に面している「武者小路千家」と分かれていったそうです。

背景は、表千家家元にある「表門」と呼ばれる門だよ。真ん中の扉が開くのは特別な時だけなんだ。



茶道の歴史

田口 颯大

私たち清風学園茶道部が学んでいるのは表千家というものでこれは三流派のうちの一つです。そもそも茶道は千利休が大成し死後、子孫や弟子などによって様々な流派に分かれていきました。表千家ではまず千利休の息子である少庵宗淳が自身の息子の元伯宗旦と共に再興させました。その後、元伯宗旦が自身の息子である江岑宗佐に不審庵を継がせたことで現在の表千家が発祥したと言われています。このように発祥の歴史だけでも様々な人物が出てきており茶道は長く複雑な歴史を持っています。この文化を絶たないようにするために現在でも様々な人が茶道を習っています。

僕は昨年と同様今年の一月にお初釜に参加しました。

お初釜では『濃茶』という普段のお稽古で飲んでいる『薄茶』とはまた別のものをいただきます。今年も濃茶と薄茶、お茶以外にも、花びら餅という、餅にみそあんとう牛蒡を巻いたお菓子もいただきました。お初釜のお稽古が終わると茶道部の部員全員でくじ引きをやります。僕は今年はずれてしまいました。先輩達が茶道に関連するお道具を当てていらっしやいました。普段のお稽古とはまた全然違い、とても興味深かったです。やはりお茶の世界は奥が深いと改めて感じました。

お初釜

岡本 英大

部を通じての成長

小門 郁斗

私が茶道部に入って成長を感じたことは立礼式のお点前です。私に通っていた幼稚園には茶道の時間があったのですがお茶とお菓子をいただくだけだったのでお点前はしたことがありませんでした。そこで、清風学園に茶道部があつたので入部しました。入部してからもですが立礼式のお点前を練習してました。最初の頃は横についてくれていた先輩に聞きっぱなしでした。しかし回を重ねていくごとに少しずつ覚えていき今は多少の間違いはあるものの最初から最後までできるようになりまし。これからも頑張つて覚えてしつかりできるようにしたいと思います。

編集を担当した栞原です。清風学園茶道部誌「侘び寂び男子」を御清覧いただきましてありがとうございます。初めて部誌制作に携わるので、行き届かないところがあるかもしれませんが、何卒お手柔らかにお願いいたします。さて、文化祭にお越しになられて清風茶道部に興味を持っていただけましたでしょうか。もし興味が湧いたのであれば、是非顧問の先生方に声をかけ、見学にいらしてください。学年・時期問わず大歓迎です。一緒に茶の湯を学び、楽しみましょう！この部誌を通じて部員が増えることを期待しています。

編集者より



その道に入らんと思ふ心こそ
我身ながらの師匠なりけれ